

日時： 2016年12月19日 18:00 ~ 19:10

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 浴森 公子 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会 委員長

白銀 優子 岩国中央病院 総看護部長 (第3期卒業生)

福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐

沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長

江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長

進行： 福水 美恵

記録： 江見 享子

1. 報告事項

1) 保健看護学科目標に対する中間評価

資料にもとづき江見より説明を行った。

<委員からの意見>

- ・入学前学習について基礎科目の取り組みであったが、キャリア教育の一環として中学生が病院見学にきて進路について相談を受けるとき、高校は普通科を選択したほうがいいと伝えている。現状はどうか。

→大学・専門学校を含めて、高校卒業が入学試験受験の要件となっており、基礎科目で必ず物理・化学などが必要ではない。また高校で履修をしてなくても、入学してからの学習を積み重ねて成績の優秀な学生もいる。

- ・天風録の書き写しなどはよい取り組みだと思う。

- ・個人目標はどのようなことをあげているか。

→個人・学年により差がある。1年生は日常生活のレベルで、「遅刻・欠課をしない」などが多いが、2年生となると具体的な学習計画として「〇/〇までに科目のまとめをする」「再試験をとらない」などがでている。

2) 看護学科目標に対する中間評価

資料にもとづき矢野より説明を行った。

<委員からの意見>

- ・先日指導者と教員との交流会があり、参加したスタッフから刺激になったと報告をうけている。自己研鑽を進める上で、そのような取り組みに参加するのに意義があったと思う。教員の自己研鑽に向けて、学校としての取り組みはどのようにされているのか。

→年に学校から一人につき2万円の補助をだし、外部研修への参加している。それぞれ自己研鑽はしているが、その後の報告会などをして教員同士が共有していくことが今後の課題である。教員は自己研鑽を行い、教育力の向上や教育観を統一していくことが必要だと考えている。

2. 審議事項

1) 魅力ある学校にするための取り組み

大学の数が増え、卒業生の数は専門学校の数を上回るようになってきており、専門学校で入学生の確保が難しくなっている。今後の取り組みについて意見をいただきたい。

<委員からの意見>

- ・ Y M C A では臨地実習で学生と共に教員が同伴して指導にあたることは、他の学校にはない特徴だと思う。
- ・ 海外研修の P R をしてみてもどうか。
今年度もハワイ研修の計画は立てたが、経済的な理由から最少催行人数が集まらない。来年度に向けては、広島 Y M C A の留学生との交流などを計画していきたい。海外に出ていなくても、学生の視野が広がるような取り組みができれば良いと考えている。
- ・ B L S や認諸症サポーターなど、教科外のプログラムを行い資格所得させて付加価値をつけていてどうか。
→今年度も D M A T について診療看護師から講義をしてもらおう等の取り組みをしている。病院で診療看護師として活躍している卒業生も出てきており、自分の将来の目標となる人から話を聞くことで、学生のモチベーションを上げていければ良いと考えている。
- ・ 学生の主体性を育てるためには、まず人のお世話をしてもらえば良いと思う。例えば、何かをする時には常に同じリーダーではなく、リーダーを変えるなどの取り組みをすれば、多くのリーダーが育っていく。次に目標とする人を持つことが大切で、その上に目標としての夢があればよいと思う。

2) その他

次回開催時より、時間調整の上できるだけ時間内で行うようにしていく。

2016年度 第2回 医療秘書学科 教育課程編成委員会 議事録

日時： 2016年12月14日（水） 18:00～19:10

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者： 山崎 幹 公益財団法人 日本医療機能評価機構 調査員

末田 幸一 医秘法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長

福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問

村中 秀子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長

沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行： 福水 美恵

記録： 沖島 均

配布資料： 1) 医療秘書学科卒業生へのアンケート集計結果

2) 卒業生アンケート集計結果（グラフ）

3) 2016年度カリキュラム・2017年度カリキュラム（案）の一覧表

4) 2017年度カリキュラム（目標検定）

議題

1. 報告事項

1) 卒業生アンケート結果

- ・開校当時の医療秘書学科の全卒業生270名に対してアンケートを行った。解答数は68件で解答率は25.2%であった。詳しいデータは別紙資料参照のこと。
- ・村中学科長から解答率が低かったこと、役立つカリキュラムについては複数解答であること、役立つカリキュラムの上位に臨地実習とインターンシップが上がっているが、これは本校の実習期間が4週間と長いことも影響しているのではないかと説明があった。
- ・委員から、歯科関連科目の評価が低いのはなぜか、という質問があった。
 - 解答した卒業生で歯科医院へ就職している学生が少ないことが原因と考えられる。また歯科医院へ就職する学生が少ないことも影響している。
- ・委員から、なぜ歯科医院への就職が少ないのか、という質問があった。
 - 歯科医院への就職は事務作業だけでなく助手の仕事も行うのが普通である。歯科での仕事内容は学生が想像する以上に大変である。助手の仕事が学生にとって負担に感じるのではないか。今年は歯科医院に6名の学生が実習に行っているので就職が増えるのではないか。

2) 2017年度カリキュラム変更

- ・村中学科長よりカリキュラム変更案について説明があった。変更理由についての詳細は別紙資料を参照のこと。大きな変更点は授業の総時間数を1965時間から1800時間に減らすことである。
 - また、領域の中に「実務」（秘書実務・就職実務）を追加したこと、選択科目を設定しそこから3科目を選択すること、授業科目表記を分かりやすくすること、授業内容のダブリを減らした科目設定をしている。

- ・委員から、学科の目指す方針は何か、就職先は岩国市内・広島県内も含めた広域で考えているのか、という質問があった。
 - 今の学科を何コースかに分けることを検討中である。現状では明確な方針は定めにくい状況だが、時代の流れを読みながら近い将来、方針を確定していきたいと考えている。
- ・委員から、マネジメント能力を持った事務職を育成するのか、今まで同様診療所を主とした就職先として考えた事務職を育成するのか、という質問があった。
 - 2年間でマネジメント能力をもった事務職を育成するには限界がある。文部科学省で定められている専門士の基準（2年間での総時間数1700時間以上）に従いながら、ドクターズクラークの資格取得を中心とした事務職を育成していきたいと考えている。
- ・委員から、岩国市の就職市場は決して良くない状況。医療機関は減少し、人口も減少している。今後も岩国市内での就職は大変厳しい見通しであるという意見が出た。
- ・委員から、ORCAの将来性について疑問視する声が出たが、学科では現在電子カルテの授業を担当してもらっている業者にORCAを使用している就職先を紹介してもらうよう依頼済である。

2. 審議事項

1) 選ばれる学科になるために

- ・本校の特徴として臨床現場での実習が出来るのは大きなメリットである。他の競合校にはなかなか出来ない実習内容である。また実習先の医療機関にそのまま就職するケースもあり、医療機関も短い採用面接等での人物評価ではなく、実習期間中、学生と接することができ、双方にとってメリットとなっている。
- ・学校の方針に則した学科経営、カリキュラム変更が必要である。

2) その他

- ・今年度の委員会は今回の第2回目をもって終了とする。2017年度の委員会については開催時間を夕方ではなく昼間の時間も含めて検討したい。改めて日程調整をさせていただく。

以 上

2016年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会

日時： 2016年12月15日（木）18:00～19:00

場所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 会議室

出席者： 中佐 孔二 特別養護老人ホーム美和苑 施設長
半田 達也 老人保健施設みどり荘 事務長
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問
佐々木洋子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長
森川 希美 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科 教員

進行： 福水 美恵

記録： 森川 希美

I 報告事項

<前回の審議事項について中間報告>

1. 実習指導者会議について

- 1) 介護実習Ⅰ・Ⅱ施設系については、3月16日（木）予定
- 2) 介護実習Ⅰ居宅系については各施設に教員が事前訪問して学生状況・教育内容等を伝えていく。
- 3) 介護実習Ⅰの通所系については、開催時期・時間等検討中

2. 2016年度山口県福祉・介護への理解促進事業（公開講座について）

公開講座として、3回の予定が7回に計画 ※別紙参照

3. 2017年度からの国家試験対策について

非常勤講師に今の1年生から国家試験が始まる事を説明し、国試に準じての教育・試験問題等への対応を依頼した。2年次からは本格的に授業の中に組み込んでいく。

4. 将来的に介護人材を増やすための活動

- 1) 10月6日（木）廿日市市「介護の日」イベントに教員3名、学生7名、卒業生1名参加
- 2) 11月11日「介護の日」啓蒙活動 ※別紙参照
学内に「介護の日」ポスターを掲示した。来年度は市役所を通して、小学校・中学校等に「介護の日」パンフレット配布の約束を頂いた。
- 3) 学生募集については、高校生からの受験は例年通りで増えていない。
 - ①オープンキャンパスについて、今年度7回実施し、卒業生5名が勤務している施設からの協力を得て参加してくれた。
 - ②一般と職業委託訓練生の受験の為の広報活動
 - ③ハローワークや岩国短大等の訪問 HPやパンフレット等での広報活動
 - ④1月・2月に夜間のOC実施予定 1/26（木）、2/23（木）18:00～
- 4) 卒業生に対してのアンケート調査は実施できていない。

5. 現在の学生状況について

- 1) 1年生17名入学後1名が進路変更のため退学した。
- 2) 2年生就職状況は、5名が内定 12月に受験者が8名 社会人3名が未定
- 3) 福祉住環境コーディネーターについて
3級受験者13名中10名合格 2級受験者2名中1名合格
- 4) 認知症サポーター養成講座に学生29名が受講した。
今後は認知症ケアの為のボランティア活動に参加していく。

II 審議事項

1. 介護人材を増やすための対応について

- ・介護人材を増やすための活動を行っているが、受験者の人数はどうなっているか。活動が人数に反映されているのか。
→2017年度入学決定しているのは現在6名であり、入学希望者数は変化がない。年明けに決定する職業委託訓練生15名まで受ける予定。人材を増やすためには、学校の広報活動だけではなく、介護福祉士の処遇改善についても課題があるのではないだろうか。
- ・職業委託訓練制度の周知徹底を行う。
→現実的に学生数を増やすには、職業委託訓練生の人数を増やすことであり、ハローワークに制度の紹介を引き続きお願いする。
- ・介護職員の資格取得を勧めるために、施設からのスカラシップも施設内で話が出たが、現在は看護師対象で考えられている。
- ・実務者研修について施設の方へアンケート行ったり、話し合いをしたりしたが希望者が少なかったため当校では実務者研修制度については見送った。
- ・高卒で介護職希望の学生もいる。
→就職した学生が初任者研修、実務者研修を行い、介護福祉士の資格を取得するためのシステム作りをしていく必要がある。
- ・資格を持たずに施設に就職した職員を、実務者研修でなく2年学校で学んでもらうにはどうしたらよいか。
→学校だけの努力でなく、周囲からの支援・協力体制を整えることが必要である。
施設のトップの会議から県へ要望（学ぶための支援金など）も出している。
- ・給与体系に魅力がないのではないかと。
→国から助成はでているが、多くの施設では月々の給与に反映されず、賞与として支給されている状態である。施設では、いつ打ち切られるかわからない助成で月々に反映させることが難しく、他職種との給与のバランスも考えなければならないため。
現在の介護報酬の加算要件である、施設における介護福祉士の割合（50%、65%）はほとんどの施設がクリアしており、給与に反映させることができるのは処遇改善加算のみである。介護報酬について、医療的ケアが行える介護福祉士の人数によって加算を行うなどの取り組みがないと給与のベースアップは難しいのではないかと。
看護師の制度としては、新しく資格を取得すると病院が診療報酬の加算を得ることができるというものがある。
- ・施設側の希望として、医療的ケアの研修会を学校で開催してもらいたい。

→県では継続した研修の開催が難しいため。学校での授業を基礎研修として公開で行うには、県への申請が必要

- ・医療的ケアのニーズ

→胃ろうの施術は一時期より少なくなり、ニーズは減っている傾向。喀痰吸引についてはニーズの高まりがあり、知識のある人材が求められている。

- ・『介護の日』アピールを、実習施設や卒業生の就職先の施設と協力して行うことができないだろうか。

- ・開かれた学校作りの為、公開講座を月1回程度行い、定着させることも必要ではないかと考えている。

→岩国短大では、夜間のカルチャースクールのようなものを実施している。若者に来てもらいたい、来られるのは時間にゆとりのある高齢者が主となっている。

- ・県内の養成校の定員50%未満となっている現状

→学生、介護人材を増やすための学校の活動として、現在の限られた教員のマンパワーでどこまでが可能か（授業以外の研修会の開催、外部研修の講師派遣など）。

- ・2年課程の中に初任者研修がとれるようにする。

→1年で退学した学生が初任者研修修了の資格をとれるようにできればと考えている。

- ・YMCAは日本語学校の養成もしているので、外国人の養成も考えていく必要がある。

→全国のYMCAではそういう流れになっており、広島でも今後協力していくことができれば良いのではないかと。

2. 介護福祉士国家試験導入対策について

- ・合格率の目標は100%

→それを学校の売りにすることができる。

3. その他

- ・2016年度の会議は今回で終了

→次回2017年度の会議は、日中の予定をしている。次年度の役員の選出は、事務長より後日連絡を行う。美和苑の中佐施設長より、光葉苑の山永施設長を推薦したいと話があった。

以上